

# 創立 65 周年記念特別企画 「未来を創れ！」世界に羽ばたく同窓生の今



いまむら いつき  
今村 樹

在籍した時期：2008年から2012年（中学部2年～高等部2年）

出身大学：一橋大学

現在：三井物産勤務、建設・鉱山機械の仕事を担当。昨年11月まで銅の産出国であるペルー・リマに赴任し、建設・鉱山機械の販売会社に勤務

## Q. 日本語学校はどんな存在でしたか？楽しかった思い出は？

公立の現地校に通っていたため、週末の日本語学校は心が休まる場所でした。お昼休みに級友と雑談するのが楽しかった思い出です。



ワシントン DC にて  
当時高校1年生

## Q. 日本語学校での経験が役立っていると思うことは？

アメリカ育ちの級友と仲を深められたことで、異国で育った日本人や日系アメリカ人のマインドセットや考え方からたくさんの刺激をもらうことができました。ペルー生活においても、日系ペルー人コミュニティと仲良くなるのに役に立ちました。



マチュピチュにて

## Q. 日本に拠点を移すことに決めたタイミングや理由は？

アメリカの公立高校を卒業するタイミングで日本の大学に進学することに決めました。英語は第二言語として習得したので、日本語を母語にしながら、グローバルに仕事ができる環境に身を置きたいと考えました。現在は日本企業で働いていますが、定期的に海外勤務があり、日本と海外を行ったり来たりしています。

## Q. 在米中はどのように受験勉強をしていましたか？

最終学年の時は、日本の大学進学に向けて最も重要な、SAT と TOEFL (iBT) のスコアメイクに集中しました。過去問対策と家庭教師の補講を活用し、特に語彙力とエッセイの強化に取り組みました。リスニングやスピーキングの教材にして TED Talks を使ったほか、英語力維持のために海外ドラマを英語字幕付で視聴したり、New York Times の記事を読んだりすることを習慣にしていました。

当時、学習時間の割にスコアが伸びないことがあり、効果的な学習方法を組み立てることに苦労しました。帰国後、日本人の絶対数が少ないワシントン DC エリアは、他の地域に比べて大学進学や試験対策に関する情報が限られていたと感じました。不利な部分もあるかもしれませんが、学習方法を自分で考えることは非常に大切ですし、今となっては良い思い出です。



鉱山ダンプトラックの前で現地職員と撮影

## Q. 在校生へのメッセージ

2 回目の海外生活をペルーで開始し、スペイン語を一から学習し、現地社会に適応していく時に、中学生でアメリカの現地校に転入して英語を一から学んだことを思い出しました。補習校で出会ったアメリカ育ちの級友から受けた刺激を思い出しながら、スペイン語を身につけラテンアメリカのカルチャーに溶け込んだことで、今では自分の中に、日本・アメリカ・ペルーの三つの軸があることを実感しています。補習校は日本から来た人にとっては現地校よりマイルドにアメリカを知る場所であり、アメリカで育った人にとっては日本を知る場所だと思います。第二言語の習得と異文化への適応は簡単なことではないですが、壁を乗り越えた時に大きく自分の世界が広がるのを感じられるのが醍醐味だと思います。